





指定番号 保存樹林第2号

指定年月日 平成8年6月6日

奄美市

慶応年代の白糖工場跡

薩摩藩が四国の白糖に対抗して、最新の知識を発揮して、イギリスの製糖機械を輸入して、名瀬金久、宇検須古、瀬戸内久、慈、竜郷瀬留、四ヶ所に白糖製造工場を設置したのであるが、その一ヶ所の名瀬金久の工場がこの付近一帯にあったものである。

社団法人奄美大島青年会議所

くれないの塔の由来

昭和三十七年九月三日午後四時五十五分、一婦人の生命を救うべく急遽用

指定年月日 平成 8 年 6 月
奄美市

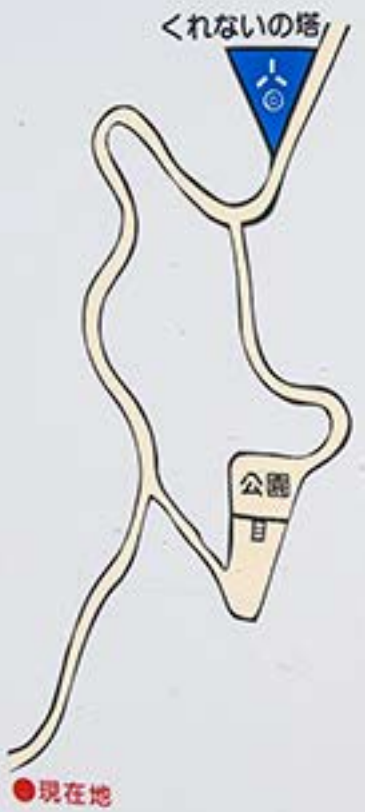
社団法人奄美大島青年会議所

くれないの塔の由来

昭和三十七年九月三日午後四時五十五分、一婦人の生命を救うべく急患用血液を輸送してきた海上自衛隊鹿屋第一航空群のP2V機が、突如この地に接触し大破炎上するという、一大惨事が発生した。この事故で十二人の搭乗員と一人の市民が尊い犠牲者となりました。

善意に充ちた愛の飛行が不測の災難と変わり人の世の運命とはいえ誠にたましい限りです。

この美しい人道的行為を永遠に讃え、異郷の地に果てた十二柱の隊員と一柱の市民の霊を慰めるために、全国の心ある人々の愛情と良識を寄せてこのゆかりの地に記念塔を建立しこれをくれないの塔と名づけました。
現在、奄美市が毎年9月3日を献血の日と定めた由来である。



平成18年9月3日 (社)奄美大島青年会議所





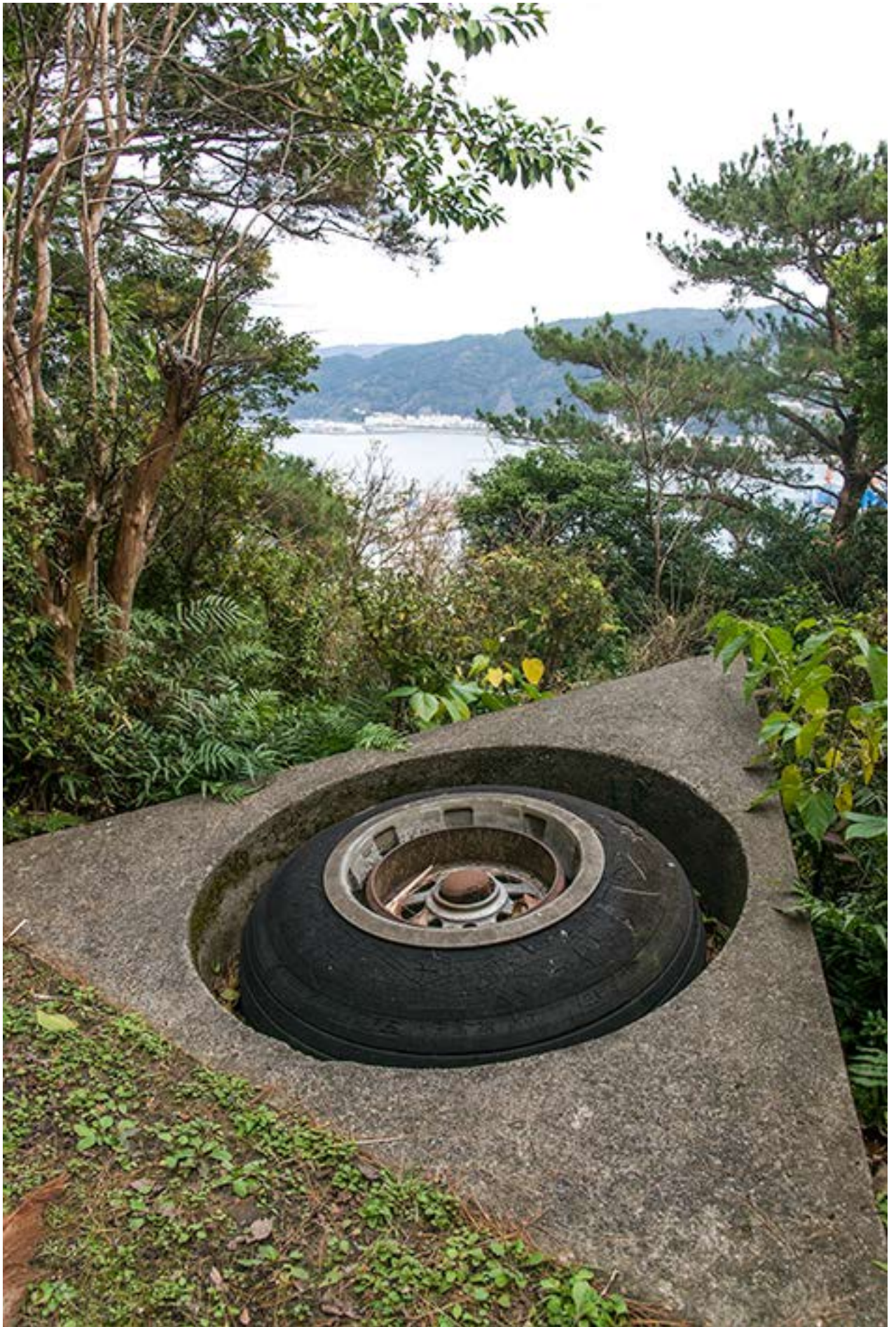






















































八月踊歌に残る
赤木右衛門宗徳
寛政十五年春（一八〇一年）
赤木右衛門宗徳は代官所
一が移されたが、御幸の程候
には、赤木右衛門の足跡に
何らかの交りがある、や
このこと、十三年の文政二
に、この地に移り、明治二年の
神仏合祀会館跡地まで御幸が
が足かたれた所である。八月
歌にある歌詞の一節に「赤木右
衛門宗徳や御幸の足跡に
る、なき言はかり」という文句
はこのことからである。
赤木右衛門宗徳の墓所

八月踊歌に残る

赤木名観音堂跡

寛政十三年春（一八〇一年）
赤木名から名瀬に仮屋（代官所）
）が移されたが、観音堂の移転
には、赤木名住民の反対にあい
何回かの交渉を重ねて、やっと
のことで、十九年目の文政二年
に、この地に移り、明治二年の
神仙分離令以降暫時まで観音堂
が置かれていた所である。八月
歌にある歌詞の一節に「赤木名
観音堂や伊津部かちなおろなお
る、なあ音ばかり」という文句
はこのことからでている。

社団法人奄美大島青年会議所























当店手づくり

ひょうげ
230028 501986
23 1.18 23 1.20
税込 198
トマト食品





